

無口な後輩に無理やり記憶操作されて脳が溶けるほど溺愛されるASMR

2021 フルーツタルト

//トラック1

「先輩……あの……」

「今日は、急に、おうちに行きたいなんて言って……ごめんなさい。迷惑じゃなかったですか？
……よかったです……」

「私の家、親が厳しいから……。子供の頃から、お友達と自由に遊んだり、喋ったり出来なくて……。誰かを遊びに誘うなんて、あんまりしたことないから、慣れてなくて……。今日も、上手に言えなかつたなって……反省してたんです」

「先輩はお友達じゃなくて……初めての恋人だから……。尚更……なんて誘つたらいいか、わからなくて……。私、ぎこちなかつた……ですよね」

(間)

「えっと……それだけじゃなくて……いつもおうちにお邪魔するのも、申し訳なくて……。私の家に呼べたら、いいんですけど……。先輩のこと、お母さんにもまだ話せてなくて……」

「付き合って、しばらく経ってるのに……」

「私……してあげられてないこと……沢山、ありますよね。その……え、エッチなことだって……したいって言ってくれるのに……待ってもらったままで……」

「彼女なのに……このままじゃダメだなって……」

「だから……少しずつでも……お願いを叶えられたら……と思いまして」

「その……先輩……今日も……」

「……しませんか？ 膝枕」

「はい……♡
ちょっとずつ……先輩に触れる、練習です……」

「……では、私のスマホ画面、
いいって言うまで……見てください……」

「……あ、心配ないです……
いつもの……安眠アプリですから……」

「そう、その調子……
この画面を……じいっと……じーっと……」

「よーく……見てて……
ぜつたいに……目を離しちゃダメです……」

「何か……変わった感じはしますか……？」

「眠くなってきた……？ そう。いいんですよ……眠って……」

「うとうとして……何も考えられないですよね……？」

「いいんですよ……そのまま……頭の中……
空っぽにして……後輩彼女のお膝に……ごろーんして……」

「眠気を覚えたら、目を……そっと、閉じて下さい。そうです……」

「どうですか……私のお膝……」

「すべすべで、気持ちいいですか……？
……嬉しいです。最近、お肌のお手入れ頑張ってて……」

「……その、たくさん触れて欲しかったから……」

「いっぱい、いっぱい……膝枕で
とろーんって、気持ちよくなってくださいね……」

「よしよし……いいこ、いいこ……眠くなるまで、ずっと、いいこ……いいこって……頭……撫で
てますから……」

「よし、よし……いいこ、いいこ……」

「私に……撫でられてる感覚と……私の……太腿の感触が……先輩の体を……満たしていきま
す……」

「全身が……少しずつ……重くなって……ゆっくりと……指先から心地よく溶けていくような……そ
んな感覚に……身を浸して……」

「呼吸が……ゆっくり……深く……ふかーく……なっていきます……」

「だんだん……先輩の中で……疲れて硬く固まった心が……ゆっくり、ほぐれて……溶けて……
指先を通って……体の外へと……吐く息に合わせて……流れ出しています……」

「疲れも……辛いことも、悲しいことも……全てが……流れ出していって……その代わりに……安
らかで深い……とってもふかあい眠りが……吸う息に合わせて……全身を満たして……心と体を
……優しく包んでいきます……」

「もう、何の不安も、怖いこともありません。ぬくもりと、安らぎだけが、先輩を包んでいます……」

「眠く……眠ーく……なっていきます……いいこ……いいこ……さあ……ねんね、しましょうね……
ふふつ……大好きですよ……せんぱい♡」

(声がだんだんフェードアウト)

//トラック2

(フェードイン)

「はあ……はあ……あん……あ……ん……はあ……ああ……気持ちいい……先輩、先輩……ん……あつ……！ 指、止められない……私、凄い濡れて……ふあ……ん……ああ……っ！」

「んう……？ はあ……ああ……くう……ん……はあ……はあ……んう、んんう……はあ……はあ……」

「……起きちゃいましたか？ 今日は……んつ、んう、ふう……今日は、いつもより……ん……早いんですね……」

「はあ……ん……んあつ♡
私……うるさく、しそぎちゃいましたか？ ああ……はあ……ふう……ん……」

「あつ……先輩に見られると……私、あつ……！ アソコが……キュンってして……凄くキツい……はあつ……指、動かせない……んふう……あつ、あああんつ……！」

「はあ……はあ……どうしました？ ああ……んつ……ああ……そつか……、先輩……今、身動き出来ないですしね……♡ 怖いですか？ 可愛い……。うふふ、大丈夫、心配いりません……」

「先輩が動けないのはあ……あつ、ああつ……さっき、見せた催眠アプリで、そういう風に……設定したから……です……。催眠を解けば……いつもみたいに、動けるようになりますからね……」

「はあ……ああ……まだ、怖いですかあ？ 安心して……くださあい……ううん……私が、安心させてあげます♡ キスしましょう……舌を入れる、深いキスを……」

(舌を出しながら)

「うふふ、べー♡ 私が、舌を先輩の口に入れて……こうやってうごかひて……ベロに絡めて、ちゅーって吸ってあげまふう……ベロ強めに吸われるの、好きでふよね？ 私が、全部やってあげまふからあ……」

(キス)

「ちゅ……んちゅ……はあ……じゅるるつ……はあ……んむつ……ぷはつ、もっと吸ってあげます……じゅるるるつ、じゅぷつ、じゅるるる……」

「はあ……はあ……目がとろんとしてる……可愛い♡ はあ……その目、好き、好きい……ああ……また濡れちゃう……指、グチョグチョ……」

「どうしました？ もしかして、びっくりします？ 私が……眠ってる先輩の上で、オナニーしてて……うふふ……そうですよねえ、びっくりしますよね、可愛いなあ」

「私……起きてる先輩と……キスもしたこと……ないですもんね……突然、こんなことになってて……ビックリですよね……♡無口な後輩彼女が、彼氏を使ってオナニーしてたなんて……ひいちゃうのも当然です……♡」

「でも、大丈夫……はあ……ああ……いつもみたいにい……また……ちゃんと……忘れさせてあげますからあ……目覚めたら、初心で処女っぽい、おしとやかな彼女に元通り、ですよ……♡」

「……だから安心して、先輩のことが世界一大好きな、淫乱彼女を楽しんでください♡ふふ、またキスしましょう？ さつきより、凄いのしてあげます……長くて、激しいの……舌、思いっきりだして……んあ……はむ……」

(キス)

「はあ……ちゅっ、じゅぶっ、れるるるるつ、じゅるるるるつ、はふっ、あむつ、んう、ちゅき、んう、ふう、ちゅき、れるるる、ちゅき、れふう、しえんぱい、んうつ、じゅぶ、じゅるるるるるる……ぶはあつ」

「ああ……早く……先輩を気持ちよくしてあげたい……。おちんちん気持ちいいの我慢してる時の顔も……精子をびゅーびゅー一出してる時の顔も……大好き、大好きい……早く見たい、精子欲しい……けどお……」

「んふつ♡ おちんちん、まだ硬くならないでしょう？ 催眠アプリの弊害で……気持ち良くて、なかなか反応出来なくなるんですって」

「いつも……気持ちいいのに、なかなかビュービュー出来なくて……もうイキたい、イキたいって、ぐずって泣いてるんですよ？ すっごく可愛くて……母性本能くすぐられちゃいます……♡」

「おちんちんの準備が出来るまで……このまま……まず私の好きにさせて下さいね……」

(以下、耳を噛んだり舐めたりしながら)

「ん……はむはむ……んう……ぺろ……ちゅ……んふつ」

「可愛い声……漏れちゃってますよお、せ・ん・ぱ・い♡ でも、動けないから……どんなに気持ち良くて……逃げられませんよ……んふふつ、はむはむ、ちゅるるつ……気持ち良くて、おちんちんが疼くだけ……楽になりたくても……まだ出せないし、快感から逃げることも出来ないんです♡ はむつ、れるるるつ」

「先輩……耳、弱いですよねえ……んふふつ、んう、はむつ、じゅぶじゅぶ……この前、おちんちんを手で擦りながら、耳を責めたら……耳とちんこ一緒にダメって、いやいやして、泣きながら……凄い量の精子、顔に飛ぶほど射精したんですよお？ はあ……可愛かったなあ……んんつ、はむはむつ、んううつ……！」

「ん、ふう……ん……はむつ、んう、先輩を、噛むの好きい……んつ、興奮しちゃうう……はあ……あふつ……んう……私の指、もうエッチなお汁でグチョグチョ……はあ……指、早くなるう……あつ、ああんつ……！」

「んう……？ はむはむ……ちゅつ、ちゅぶっ、ははむはむ……ぺろ……くちゅくちゅ……こんなえっちなこと……じゅるる……先輩に恋するまで、したことなかったのにい……んう……ちゅむつ……」

「はあ……はあ……付き合い始めた頃は、私……エッチな気分になると女の子が濡れるってことも……イクってどういうことかも、知らなかつたのにい……先輩が好きで、好き好き好き過ぎて♡ いっぱいエッチなこと勉強して、オナニーして……先輩とたくさん内緒のエッチして……もう、こんな

に濡れやすくなっちゃいましたあ……ああん……」

(息をかける)

「はむっ……ふー」

「んふっ……びくつしましたね……息掛けられるのって……気持ちいいですよね……さつき、私……すごく気持ちよくて……膝枕しながら……濡れてたんですよ……」

「それなのに、太腿の匂い嗅ぐから……ドキドキしちゃった。私のエッチな匂い……気づかれちゃうんじゃないかなって……」

「こんなにエッチな子だって知られて、嫌われたくない……太腿、性感帯だってバレちゃダメだって……緊張したら、なんだかゾクゾクして、また濡れちゃって……うふふ……私、バレちゃいけないってシチュエーション好きなのかも♡」

(息をかける)

「ふー……先輩、好き……んう……学校で……いつも、優しくしてくれるところも……ん、はあ……本当はお話ししたいこと沢山あるのに……上手く言葉が出ない私を、つまんないって見捨てないで……ちゅぱっ、好きって言ってくれたことも……はむはむ」

「んう……初めての恋人で……嫌われたくない、勇気が出ない私を……待ってくれる紳士なところも……はむはむ……はあ……はあ……」

「顔も……体も……はむっ、噛み心地のいい、耳も……んふふ、噛むの好き……噛むと……ん……興奮しちゃう……」

(息をかける)

「ふー……うふふ……ねえ、先輩。学校で私のこと……エッチな目で見てる時、ありますよね？ 私の……唇とか……おっぱいとか……スカートとか……太腿……じっと見てますよね？ そういう表情も好き……」

(息をかける)

「私も……エッチなこと考えながら、先輩のこと……ちゅるる……見てるんですよお……ふー……んふふっ、抱きしめられたいなあと、キスされたい……舌入れられたい……おっぱい揉まれて……乳首舐められて……クンニされて……手マンされて……はあ……はあ……」

「勃起したおちんちんを……おまんこの奥まで挿れられて……子宮ガンガン突かれて……はむっ、れるるっ、ちゅっ、ちゅぱっ、濃ゆい精液い……全部ナ力に出されたいって……はあ、はあ……！」

「いつか……いつか、学校でも……膝枕とかしたいし……もっとエッチなこともしたい……！ 周りの人にバレちゃいけないってなったら、私……すごく感じちゃうかも……！ はあ……はあ……」

「バレてもいいの……そんなことより、先輩にもっと愛されたい、はあ……たくさん好きって言葉でも、体でも伝えたいし……ああ、あああんっ！ 恋人同士なんだから、何も恥ずかしくない、本当は皆に見せつけたい……！ 本当は、私は、先輩になら、どこで、何されてもいいの……はあ……はむっ、じゅるるっ、先輩……先輩……っ！」

「先輩の指、好き……本当は、私の指じゃなくてえ……いつか、先輩の指でイキたい……いつも……本当はあ……その指でぐちゃぐちゃにされたいって……想像してるんですう……」

「はむっ、はむはむっ、はあ、はあ、ああ、先輩、好き……好き……ああつ、先輩の匂い……体温……感じながらイケるの……嬉しい……」

「あつ、あつ、イキそう……はあ、はむっ、んううつ、はあ、私今、おまんこがぎゅうって、私の指、締め付けてるんですけど……」

「指……三本挿れてるんですよ？ 先輩のおちんちん、太いから……指……三本じゃないと、満足出来なくなっちゃったんですよ……？」

「初めて……自分で指挿れた時は……一本でも痛くて……ちょっとでも奥に触ると……痛かったのにい……もう、三本でも足りないくらい……はあ……ああ……もう、おまんこがおちんちん覚えてる……もっと奥に欲しくて……あ、ああつ……！」

「……はあ……ああ……おまんこビクビクしてる……ああ……イク……はむはむっ、んうつ、ああ、イク……おまんこ締まるうつ！ はあ……先輩の……ああつ、精液欲しくて締まるのっ、はあん……はあつ……あ、あうつ……んあ、あつ、あ、んんう……つ！」

「あああつ、気持ちいいつ、はむっ、ん、ちゅう、ちゅるつ、先輩の耳噛んでつ、はあ、匂い嗅いで……ああつ……すごい、これ、キく♡ おまんこの奥にキチやいます♡ もう、クセになっちゃって……あああああつ！ ダメ、もう、イきます、イキますうつ……！」

(絶頂)

「はむはむっ、じゅるるるるつ、はあつ、あああつ、先輩、せんぱい～つ！ 好き、好き、好き、大好きいいいいつ、あああああああああつ！！」

「あああんつ！ はあ、はあ、……ちゅつ……私……私の部屋でオナニーするより……先輩の前でオナニーする方が……ずっと気持ちいい……大好きな人に見られて……触れられて、いっぱい匂いがして……はん……はむっ、ああ、ごめんなさい♡ ……お耳……ぺろつ、美味しいから……いっぱい噛んじゃいました……♡」

(息をかける)

「痛く……なかつたですか？ よかつた……ふー……うふふ……体、ビクビクってして……可愛い……れるるつ……ふー……うふふ♡」

「あ……♡ おちんちん……ちょっとおっきくなっていますね？ ズボンの前が膨らんで、変な形になってる……」

「ふふつ、催眠エッチするようになって気付いたんだすけど……先輩、学校で勃起してる時ありますよね？ バレてるのに、気付かれないように隠して……可愛いなあって」

「そういう時、いつも私……机の下に潜って……皆に内緒でフェラしたいな♡ って考えてるんですよ？ ううん、皆の目の前でもいいの♡ イラマチオされてみたい♡ 勃起したおっきいおちんちんで、乱暴にロジュポジュポされたい♡ 先輩となら……皆の前でセックスしたっていい♡ はあ……」

今すぐにでも勃起おちんぽとえっちなことしたいって、頭がいっぱいなんですね……」

「はあ……はあ……でも今は……誰にも邪魔されず、世界一カッコイイおちんちんと……いっぱいエッチなこと出来る……気持ち良くしてあげられるし……おちんぽで気持ちよくなれる……♡」

「だから……次は……二人で気持ちよくなりましょうね……」

「私、いっぱい奉仕しますから……いっぱい気持ちよくなつて……私に精液……いいっぱい……くださいね？ せ・ん・ぱ・い♡」

//トラック3

「じゃあ先輩、脱ぎ脱ぎしましょうねえ♪」

「ふふっ、先輩のおちんちんって、いつもこっち向いてますよね？　おちんちんって、いつもオナニーする手の方に曲がるって聞いたんですけど、本当なのかなあ？　いつも、こっちの手でシコシコしてるのかなあ……？」

「先輩がオナニーしてるところ、いつか見てみたいなあ……。エッチなこと……私の為に待ってくれる先輩が、自分の性欲の為だけに、エッチなもの見たり、想像したりして、自分でおちんぽ握ってシコシコ勃起させて射精してるところ……見てみたい。私としてる時とは別の……えっちな顔してるんだろうな♡」

「でも今日は、私が全部してあげますね。いっぱい気持ちよくなつて、だいすきな射精、たっくさんしましょうね♡」

「まず、もっとおちんちんおつきくしないと……。ふふっ、先輩の好きなところ、私いっぱい知ってるんですよお」

「剥き出しの先端のところを、なでなされたり、ペロペロされるの、好きですよね。あつ、今おちんちん、ぴくつしました。想像しました？　ふふっ、でもダメですよ。まだ触ってあげません。だって、焦らされるの好きでしょ？　ほらあ、また感じて、ぴくぴくつっちゃいましたね。はあ……可愛い……♡」

「まだ柔らかくって可愛い時に、おちんちん全部頬張って、口の中でベロベロって舐め回されるのも、好きですよね。すぐにおつきくなつて……口いっぱいになっちゃつて……。口から出さなくちゃいけなくなるの……寂しいけど、いつも、とっても……愛しいなって思つて、至近距離から見ちゃうんです♡」

「そうだ。おつきしたおちんちんの裏側、根元から先端までゆっくり刺激されるのも、好きですよねえ。おちんちんの裏の血管を、ゆっくり、やさしく、指先でなぞると、どんどん硬くなつて、最初の頃、それだけで出しちゃったことあるんですよ♡　いつもと違う、こんな早くない、こんなのやだつてぐずつっちゃつて……はあ♡　私のせいで我慢できなかつたんですね？　とっても嬉しくて、可愛い、あの時、先輩のこともつともっと大好きになりました♡」

「反り返つて浮き出た裏の筋を、根元から舐め上げるのも、反応いいですよね。いつもビクンビクンっておちんちん凄く震えて……。手でちゃんと押されてないと勝手に動いちゃうんです」

「ああ、そうだ。あと、おちんちんとタマタマの境い目辺りを、舌先でくすぐると、エッチな声漏れちやうんですよ」

「うふふ♡　焦れつたそうな顔してる……可愛い、好き。じゃあ、今からおちんちんに触りますね。まづ……口いっぱいに頬張っちゃいます」

(口に頬張りながら)

「んう……んふふ、全部入りましたあ……私の口いっぱい……この感触も……味も……らい好きい……このまま、おちんちん舐めますよ……じゅるるる……じゅるるる……んふう……おつきくなつて……ほっぺたに押し付けないと入らない……んふ♡ ほっぺたとか……上顎で擦りながら……いっぱい舐めてあげますね……ん……んう……れるるるつ、じゅつ……じゅるるる……んう……つ！」

(口から出して)

「ふはあ……おつきくなつて、もう、口に入りきらないですう……うふふ、さっきまでこっち側にぺたんって倒れてたのに、上を向いて来ましたね。はあ……♡」

「おつきくなる前のおちんちんも可愛くて好きですけど、筋が張つてくると……体がゾクゾクってしぢやいますう。この逞しいおちんちんに……おまんこめちゃくちゃにされるの気持ちいいって思い出すから……」

「血管、ドクンドクンつてしてる……。こうやって、指先で、下から上になぞつて……あんつ！ ふふつ、おちんちんが急に動いたから、驚いちやいました。んふつ、焦れつたですか？ もっと気持ちよくなりたいですよね♡ ああ、苦しそうな顔も、大好き……。もっと見たあい……♡ ふふ、名残惜しいけど……お望み通り、うんと強くしゃいます♡ 大好き彼氏さんに……もっともつと、悦んで欲しいですから♡」

「先っぽの柔らかいところ、手のひらで包んで……なでなでしてあげますね。それされるの、大好きですもんね？ 前に、これだけは教えてくれたんですよ……オナニーする時、よくこうしてる……つて。こうでしょう？ はい、なでなで～」

「おちんちん、ビケンビケンしてますねえ……気持ちいいですねえ♡ 感じてる先輩、可愛い……もつとしてあげます。どんどんおつきくなつて……はあ……おちんちん、いいこですねえ……なでなで、よしよし♡」

「先輩♡ どんどんおちんちん勃起出来て、素敵です♡ かっこいいですう♡」

「はあん♡ もうだめえ……手じゃ物足りない……匂いも味も感じたいですう……硬くてふとーいおちんちん舐めるの大好きい♡」

(以下、舐めながら)

「裏筋、舐めますね。根元から……上に、んう～……カリのクビレのとこ、舐めますよお、れるるつ……真っ赤な亀頭も舐めちゃいますね、ペろつ……んう……まだお汁出でないですねえ……」

「我慢汁出てきたら、鈴口舐めてあげますね。先っぽは我慢汁と唾液でたっぷりヌルヌルにしてから、そつと舐められる方が感じますもんね。今は何もしないで……ちゅつ……また、下にいきますよ～……カリをまた舐めて……れるう……裏筋、舐めながら、した～……んう……ふふつ、根本の方、変わった匂いしますよねえ……この匂い、好き……えっちな気持ちになりますう、ちゅ……」

「先輩の好きな、タマタマのところ……舐めますね……れるれるれる……はあ、可愛い声出ちゃいましたね♡ れるる……気持ちいいですね……おちんちんがビクビク動いて……んふつ♡ タマタマ、キュッてなりましたよ？ 精液、上がったかな？」

(舐めるのここまで)

「おちんちん、手で擦ってみましょうか。あつ！ 触っただけなのに、凄い反応……嬉しいです……！ 握りますね……ふふつ、やっぱりい……。これ……精液、おちんちんに上がってますよね？ 余裕なくなってきた時の顔、凄く色っぽくて……なんだろう、男の人なんだって本能でわかるの……見ただけで感じちゃいます♡」

(以下、舐めながら)

「手でコスコスしながら、タマタマのところ、もっとナメナメしましょうね。んつ……れるる……うふ、ふつ♡ 可愛い……♡ れるつ……んう……ふふつ」

「今からおちんちん舐めていきますね……根本……んふつ、さつきより太くなってるう……はあ……裏筋も硬くなっていますね……ゆっくりい……ちゅ……れる……舐めていきますね……舐めながら……手でコスコスして……ああ、そうだ……せ・ん・ぱ・い♡」

「手でタマタマ、優しくもみもみしますよ？ 裏筋……ちゅ……舐めて……全体を擦りながら……もう片方の手で、タマタマ揉みますからね……んう……ふふつ、気持ちいいですね～……カリの窪み、舌で一周しますよ……れるうつ……はうんつ」

「先輩、可愛い……んふつ、れるう……我慢汁出ちゃいましたねえ……エッチな匂い……ふふつ……鈴口舐め……るのは、少し後にしましょうか」

(舐めるここまで)

「口で亀頭全体を愛して……長いサオを手で擦って……タマタマも可愛がってあげますね……鈴口を舐めるのは……ふふつ、いつにしましょうか……こんなこと言ってえ……今すぐしゃうかも……」

「あんつ♡ 先っぽから我慢汁がとろとろって出てきましたあ♡ はあ♡ 私に舐められること考えて、エッチなお汁出してるんですか？ 先輩……先輩可愛い……好き……好きですう……はあ……フェラ、しましょうねえ……♡」

(以下、フェラしながら)

「ぐふつ……じゅるるるるるつ……んんつ……この味……好き……好きです……先輩から出るもののは……全部美味しい、好きい……んんつ……」

「んふつ♡ 私の手に合わせて……お汁せり上がってくるう……あうつ、ちゅぱつ、はあ……我慢汁と……唾液で、おちんちん、滑りがよくなってきた……手、もっと早くしますね……あは♡……先輩、えっちな声♡ 早く扱かれるの気持ちいいですねえ♡ フェラで、もっとよくしてあげますね♡」

「んうつ……！ はあ、我慢汁……美味しい……好き、好き……もっと、もっとしますねえ……じゅるるるるるつ、じゅるるつ、ぶじゅつ、じゅるるるるるるつ！」

(フェラここまで)

「ふはあつ、んう～……ふふつ、前にもそうやって、ぐずって……言ってましたよお……もう出るはずなのに、まだ出ないって……ふふ、アプリの弊害……もどかしいですねえ……焦らされて可哀想……可哀想……うふふ」

「泣かないで♡ もっと強く刺激して、あげますからあ……大丈夫、私が射精させてあげます。先輩が気持ちよく、ぜんぶ出せるまで、私がずっとご奉仕しますからねえ♡」

(以下、舐めながら)

「せ・ん・ぱ・い♡ ヌルヌルの鈴口、なめなめしますね♡ ほら、見て……れるつ、ちゅぱつ、れるる、んうつ……はあ……んふつ♡ おちんちんがブルブルしてるう……気持ちいいですねえ……♡ もつともつとしてあげますからね♡ んう……れるれる、ちゅぱつ」

「んふつ♡ カリが大きく、張ってきましたね♡ ちゅつ、れるる……ふふつ、先輩が、興奮した顔で、私見てるう……れる……ぺろ……ちゅう、れろ、れろ……れるるつ」

「んうつ♡ ……はあ……れる……もう苦しい……？ じゃあもう……ぜーんぶ出して、楽になりましたよ……」

「おちんちんゴシゴシして、ヌルヌルの先っぽなでなでしてあげる……さっきの撫で方とは違いますよ……も一つねっとりした、えっちなやつ……先輩が感じるところだけ責めてあげますからね……いきますよ、せ・ん・ぱ・い♡」

「んんつ、んんんつ、んう、ああつ、そんなに、そんなに気持ちいいですかあ？ はあ、おちんちんパンパン、我慢汁もどんどん出て……ふふふ……本当にいいこ……いいこですね……私の手に素直に感じて……そんな、泣きそうな可愛い声出してえ……私、とっても興奮しちゃいますぅ！」

(以下、耳を噛んだり舐めたりしながら)

「ふー……んふつ、ちゅつ、先輩……耳……好きですよね……はむはむつ……んうつ……おちんちん暴れてるう……はあ……ちゅるつ……気持ちいいですねえ……♡」

「はあ……はむはむ……好きです。スキスキ！ 先輩も……私のこと大好きなの知っています。私とのエッチを待ってくれてるのも、私をいやらしい目で見るのも、学校で私から目を逸らすのも、好きだからですよね。私を見たら興奮して勃起しちゃうからなんですよね？？？ はあ……本当は私も、そのままオナニーしてほしいの、そのまま学校でエッチしたいんです♡ でも恥ずかしいから、催眠エッチするしかないんです♡ イケない後輩でごめんなさい♡ だから今だけは、好き放題びゅーびゅーって射精して♡ いっぱいいっぱい、気持ちよくなってください♡」

「あっ、もう出そう？ 出るんですね？ まだだめえ、私の口に出して！ 全部飲ませてえ！」

(フェラ)

「じゅるるるるるるつ、んんつ、じゅるるるるるつ！ んう、出して、出してえ……んんうつ、んふつ、出るう……出……」

(射精)

「んぷつ！ んんんんんんんんつ、んむつ、んんんんんんんん、ふうんつ、んんんんんんんんんんんんんつ！」

「ごくんつ……はあはあ……全部飲みましたよ……先輩の精子……すごく量があって……濃くて、喉に絡んで……飲み込むの大変でしたあ♡」

「ほら、べー……んん、まだ喉の奥に残ってて……きゅんってしゃいます……♡」

「こんなに凄い射精出来て……先輩、かっこいいです♡」

「ふふつ、本当は耳の中、ぺろぺろしながらおちんちん触ると……すぐ我慢できなくなってイッちゃうんですけどね♡ それ知ってるから、耳責めないで、焦らしちゃいました♡」

「感じてる先輩大好き、イってビクビクしてるおちんちんも、精液も、イった後の顔も全部好き、スキスキスキずっと私だけのものですよ♡」

「はあ、好き♡ ……次は私のおまんこに射精して♡ 喉にしたみたいに、おまんこの奥の子宮にザーメンぶっかけてください♡」

//トラック4

「んー、ちゅつ♡ 先輩かっこいい♡ スキ、ちゅつ♡ スキですう♡ ちゅつ♡ 勃起おちんぽ太くて硬くて大きくて♡ 精子が熱くて濃くてドロドロで♡ はあ……♡ スキスキスキ♡ ちゅつ、ちゅつ、ちゅつ♡」

「感じてる顔も、イってる時の声も、好きですう♡ 可愛くてえ♡ ちゅつ♡ ぐずったり、泣きそうな声出したり……♡ ちゅつ♡ 気持ち良すぎるんですよね？ でも、気持ちいいの大好きなんですね？ 私に気持ちよくされて、びゅっびゅって射精するのが好きなんですね？ だから、いつも、焦れて泣いちゃうんですよね？」

「はあ、好き♡ 早く出ちゃう時も、なかなか出なくて泣いてる時も好き♡ 先輩が気持ちよくなつて射精するのが好き♡ 私、先輩が射精したつことが嬉しい、愛しくて、いつもキュンキュンしちゃうんですよ♡」

「うふふ♡ ちゅつ、スキ♡ スキだから、今日も精液全部、空っぽになるまで出させてあげますね♡ 先輩の子種、ぜーんぶ私にくださいね♡」

「ふふっ、おちんちんって、勃起してる時はかっこよくて、フニャフニヤの時は可愛くって……どっちも好きです♡ んふふ、ぜーんぶ口に入れてえ……いっぱいペロペロして可愛がってあげます♡」

(口に頬張ったまま)

「んむっ、れるるるるるつ、んうつ、先端のツルツルのところ、んむっ、ほっぺたの内側で擦ると、おちんちんビクビクしますねえ……♡ んふつ、可愛い♡」

「んつ、んんつ、れるるつ、んんんつ、ペろペろペろ、ふはあつ」

(口から出して)

「もう口に全部入らなくなっちゃいました♡ いいこいいこ……ちゅつ♡ はあ……♡ このままフェラで……もっとおっきくしてあげますね♡」

(フェラ)

「じゅふっ、じゅふっ、んんふつ♡ 大きくなつて……じゅふっ、きたあ……んむつ……もっと……じゅふっ……根本まで……じゅるるつ……全部う……じゅふじゅふ……舐めたい……じゅるるるる、じゅるるるるる……！」

(舐めながら)

「んんつ……んふつ、裏筋……血管浮き上がってえ……かっこいい……♡ 裏筋……舐め上げますねえ……タマタマから……れるるるつ……んうつ♡ さつきより、匂いが濃くなつてるう♡ 可愛がつてあげます♡ れるるるつ、ペろペろ、ちゅむちゅむ……」

「あ……♡ もう我慢汁出てますう♡ はあ……私に舐められて……射精したくなつてくれたんですね♡」

(フェラ)

「じゅるるるつ……じゅふっ……じゅふっ……我慢汁と……じゅふっ……唾液を混せて……こう

やって……じゅるるるるつ……おちんちんに塗り広げて……じゅるるるるつ、じゅふじゅふ……んう
……すごいエッチな匂い……♡」

「はああつ♡ もう我慢出来ない……先輩……セックスしましょう？ 大丈夫、私が上になって、全部
してあげます。私のおまんこで、おちんちん、ちゃんとした気持ちよくしてあげますからね……♡」

「ふふふ……見て……？ おちんちんの先っぽが……おまんこの入り口に当たって……はあ……
私達のどろどろで涎みたいにエロ一いお汁が合わさって、グチュグチャっていやらしい音がします
ね……」

「はあ……ん……このまま、挿れますからあ……見てて……私があ……太いおちんちん、おまんこ
に挿れるところ……こんなおっきいおちんちん、ちゃんと全部……根本まで……私、受け入れられ
ますからあ……」

「ああああんつ！ 入ってきたあ……は……あっ、もう少しで、私の好きなところ……カリがここ通る
時、好き、好きなの……あああああああんつ！！

「好き、好き……あああんつ！ おまんこの入り口が……根本の太いところに広げられてるう……
はあ……最初の頃、痛くて……入らなかつたのが嘘みたい……こんなに、擦れてえ……はあんつ、
太くて、気持ちいいのにい……！」

「はあ……あ……んんつ……そろそろ全部ですよね？ 私もう、奥も痛くないんです……！ 初めて
の時は……こんな奥……痛くてダメだったけど……今は……奥が一番好き……！ このおちんち
んが、全部入らないと届かない……奥が好きなんですう……指じゃ届かないところ……ああつ、も
う少し、来て、来て、あつ、届く、先輩のおちんちんが、奥に当たっちゃう！」

(絶頂)

「ああああああああんつ……！！」

「はあ……はあ……挿れただけなのに……軽くイッちゃつた……おちんちん……気持ち良すぎます
よお……」

「はあ……動きますね……まずは前後に腰を動かして……はあ……あんつ……！」

「ああ……そうだ……上、脱がないと……大丈夫、腰、止めませんから……はあ……んつ、んつ
……！ はあ……つ、脱げた……んつ、あんつ……ブラも……外して……ふうつ……」

「んふふつ♡ 私のおっぱい見たら、またおっきくなりましたね♡ 嬉しいですう……♡ はあ……あつ
……先輩に見られて……乳首もっと勃っちゃう……♡」

「乳首、あんつ、疼いてますう……乳首、弱いんですつ、感じるからあ……弄りたい……けどお
……そうしたら、腰早く動かせなくなるからあ……我慢して……おちんちんに奉仕しますう……
んつ、んうつ、はあんつ……！」

「ああつ、はあんつ♡ おちんぽ気持ちいい♡ ああつ、あああんつ♡ はあつ、先輩が、おっぱい見て
るうつ♡ はああんつ♡ 気持ちいいつ、おまんこキュンキュンして、締まっちゃう……はあ……感じ
るうつ……！」

「んんつ、はあんつ、動き方変えますね。上下に、ピストン、しますからあ……んつ、手、繋がせてく
ださい……！」

「はあ、先輩の手、おっきい、あったかい、好き、指、太いい……この指で、私の体、全部、口の中も、おまんこ奥まで、触られていじられてみたい……！ いつか……手マンで、グチュグチュされて……イキたいなあ……！」

「はあっ……！ 動き、上下に、変えますよ……！ どうですか！？ ピストン……んつ……おっぱい、もっと揺れちゃう……んふふつ、先輩、おっぱいに釘付けですね♡ ふふつ……嬉しい♡」

「これやると、……私のおっぱい、エッチな目で見てくれるからあ……好き……♡ 見て♡ いっぱい見て♡ おっぱいも、乳首も……全部、先輩専用だからあ♡ ……はあ……ああ、おちんちん、凄く硬くなってるう！ 気持ちいい、いいいい！」

「はあ、はあ、おっぱいだけじゃなくて……下、下も見て♡ 私達が、エッチしてるところ♡ おちんちんが、おまんこ、出たり、入ったりしてるところお♡ んふふつ、ふふつ、すっごい興奮してる顔してるつ♡ 私のエッチなところ見て、本当にセックスしてるんだって♡ ムラムラしちゃってるんだ♡ うふつ♡ 顔が真っ赤ですよお♡ その顔スキスキスキいい！」

「はあ、ああ、気持ちいい、気持ちいい！ ずっと、これが欲しかったの……！ 学校にいる時間も、先輩のおうちにに入った時も、膝枕してる時も、オナニーしてる時も、ずっと、エッチなところ見られたかったあ、おちんちん欲しかった、先輩とセックスしたかったつ、はあんつ！」

「私の心も体もつ、おまんこもつ、おちんちんが忘れられないのつ、いつでもつ、家に一人でもつ、おちんちん忘れられなくて、いつも、先輩のこと考えて、エッチしたいって考えちゃうのお……！」

「はあっ、ああっ！ 好きっ、好きいっ！ ああっ、もうダメ……あ、はあんつ……！」

「はあんつ！ 体勢、変えますねっ！ 先輩の上に寝て、全身ぴったりくっつけて、お尻、クイクイ動かして、おちんぽっ、気持ちよくしますねっ！」

「先輩っ、先輩いっ、はあっ、密着エッチ、気持ちいい♡ んんつ、腕、曲げちゃいましたけど、痛くないですか？ 手の上に、おっぱい乗せて……んつ、んつ♡ こうやって♡ おっぱい♡ 先輩の手で触ってもらいたくてえ♡」

「はあんつ、気持ちいいよおっ！ もっと腰、振りますね！ はあ、はあ、いっぱい、いっぱい……気持ちよくなつて、もらえるようにい……！」

「んんんんつ……♡ おちんぽ、おちんぽビクンビクンしてるうつ♡ 先輩、気持ちいいんですねえ♡ おっぱい触つて、耳に息、はあ、はあ、掛かって、おまんこでおちんぽ擦られて、気持ちいいんですね？ はあっ、先輩スキスキスキ♡」

(耳を噛んだり舐めたりしながら)

「はあっ、あむっ、はむっ、ちゅっ、れるっ、ああああん……っ！ ああっ、私のナ力でおちんぽっ、凄くなつてるっ……！ はあっ、おちんちんに、精液来てるんですね？ はあ、はあ、おつきくて、奥、子宮まで、コツコツ当たつてるうつ！ 太くて、熱くてえ、ああっ、おちんちん、全部、全部気持ちいいよおっ、はあっ、こんな凄いおちんぽ挿れられたら、女の子みんな、頭おかしくなっちゃいますよお！」

「ああっ、先輩の匂いするうつ！ はむっ、れるるるっ、はむはむっ、じゅるうつ、れるるるっ、ちゅっ、ちゅっ、はあ……はあんつ……♡」

「はあ♡ いつか、学校で、すごいえっち、しましうね♡ こんなおちんちん見たら、女の子達皆、先

輩のこと大好きになっちゃいますよ♡ はあ……はむはむ……れるるるつ……皆の前で、エッチして……先輩のおちんぽはあ……こんなにすごいんだって、見せつけちゃいましょうね♡」

「はあ……はあ……ああっ……！ もうだめえ、私もうイク、イキますうつ♡ おちんぽが気持ち良くて♡ 良すぎて♡ 先輩のおちんぽしかわかんない♡ ああっ、イク、イッちゃううつ、ああっ、先輩、先輩いつ……！」

(絶頂)

「あああああああああああんつ……！！」

「はあ……はあ……ああ……おまんこ痙攣して……る……けど……動く、動くのおつ……はああああっ！ イッたばかりのおまんこ、バキバキちんぽで、擦るの、気持ちいいいい……！」

「ああああっ！ 先輩♡ 先輩♡ 大好きだから、頑張れるの、好きっ♡ ちゅつ、れるるるるつ、はむつ、あんつ、おまんこ締まるうつ、腰止まらない、またイッちゃううつ……！」

「んああっ！ あ、 はあ、はんつ……イキそうなんですね？ 嬉しい、嬉しいスキスキスキ♡ 精子、子作り赤ちゃん汁、ナ力にもらえるんだあ♡」

「あれえ？ どうしたんですか？ はあん……ナ力出し、怖いんですか？ 赤ちゃんデキちゃうから？ はあ……可愛い♡ 責任感あって、優しいところ、好き♡ 先輩だけが好き、もうあなた以外いない、スキスキスキ♡」

「せんぱあい♡ ペロペロペロ……はあ、はんつ、大丈夫ですよ♡ ナ力出し怖くないですよ？ 忘れちゃったんですか？ 私達、恋人なんですからあ……ふふつ、ちゅつ、ちゅぱつ」

「恋人だから、赤ちゃんデキていいんですよ♡ 私、欲しいです……先輩の赤ちゃん♡ だから、出して、出して、精液つ、赤ちゃんのタネいっぱいの、濃厚精液、ナ力にしてえつ……！」

「ああっ、あっ、もうだめ、だめえっ、またイッちゃううつ、先輩、私またイキますっ、せ、せんぱいもいつしょ、一緒にい……ああっ！」

(以下、絶頂)

「あ、あああああああああああああんつ！！」

「あっ、ああっ！ ちんぽビクビクしてるうつ……！ 来るつ、精液つ、生おまんこに射精されちゃううつ……！」

「あああああああ、精液てる、熱い、あああああっ！ 濃い、濃い、あああああっ！ また出つ……！ ああああつ、多い、多すぎつ、ああっ、気持ちいいつ、またイク、イッちゃううつ！！」

「ああんつ、いやあああああああああああああっ！！」

「あああああっ！ やああっ、私、潮吹いちゃつ……！ やだ、お汁止まらな……あああんつ、ぶしゃあって、出ちやう、やだ、やだ止まらないつ、また出ちやう……ごめんなさい、あ、ああ、やあああつ……！」

「あああああああああああああああっ……！！」

(間)

「はあ……はあ……ナ力だし射精……とっても気持ち良くて……かっこよかったです……♡ 先輩のこと……またもっともっと好きになっちゃいましたあ♡」

「うふつ♡ 眠そうですね……いっぱい射精して、気持ち良くなって、疲れちゃいましたね♡ 可愛い、スキスキ、ちゅつ、ちゅつ、このまま眠って……そして……ぜーんぶ忘れて……」

//トラック5

「先輩の体、綺麗に拭いたし……。服も元通り。後はまた膝枕して……よいしょっと」

「ふふつ、ぐっすり寝てる、可愛い♡ キスしちゃおう♡ ちゅつ……じゅつ……じゅるつ……ちゅふ[。]ちゅふ[。]……ちゅ……はあ……好き……ちゅつ……はあ……んつ……♡ ちゅるるるるつ……ふ[。]はあつ」

「うふふ、可愛い♡ いいこいいこしゃいます♡……」

「なで……なで……よし、よし……」

「ふふ、先輩が覚えてないから……大胆になれるんだけど……
いつかは、催眠なしの先輩と……エッチ出来たらいいなって思ってるんです……」

「私……頑張るので……だから……そのうち……
ありのままの私も……受け入れてくれると……嬉しいです……」

「なで、なで……いいこ……いいこ……」

「先輩を包んでいた眠りの膜が……ゆっくりと開いてきます……まずは音……それから光……先輩の意識は、目覚めに向けて浮上していきます……」

(間)

「おはようございます……先輩……よく眠れましたか？」

「よく眠りすぎて、少しだるい……？ あの……大丈夫ですか……？」

「……ちょっと、やりすぎちゃったかな……」

「あ、いえ……こっちの話です……気にしないでください……」

「なるほど……心地よい疲れ、ですか……。どんな夢を見ましたか？
なんにも覚えていない……。それだけ……よく眠れたんですね……よかった……」

「…………あ、あの」

「その……お疲れかもしれないですが……
一つ、お願ひを聞いて……もらえますか……？」

「……先輩と……き、き、……キスが……したい……です……」

「……あ……えと、その……見たら、したくなつたというか……」

「——ちゅつ」

「……わ、忘れてください」

「えつ……ほっぺじゃダメ……？」

「わ、わかりません……キスなんて……
したことないですから……どうしたらしいのか……」

「いえ……は、恥ずかしいんですけど……嫌じゃ……ないです……
私が……望んだこと、なので……」

「え……目を、閉じる……。……は……はい……。こう、ですか……？」

(キス)
「ちゅつ……ん……ちゅうつ……」

「い、今のが……キス……。は……恥ずかしい……！」

「嫌なんかじゃ……う、嬉しいです……。
私の……ファーストキス……先輩とで……本当に、嬉しいです……」

「もう一度……。こ……今度はもっと凄いキス……？ そ、そんな……」

「あ……いえ……ただ、恥ずかしくて……は、はい……もう、黙って、目を閉じてますので……後は
……お任せ……します……」

(キス)
「ちゅつ……あ、やつ……舌……が……あ……ちゅるるつ、んんつ、ちゅるるるつ」

「ちゅう……れろ……んつ……あ……」

「ん……ふう……ちゅつ……ちゅく……ふはあつ……♡ ああ……♡」

「はあ……はあ……
キスの感想……ですか？ えっと……気持ち良くて……その……」

(モノローグ)

「はあああん……♡先輩から舌入れられるの初めて♡ キスされる側ってこんな苦しいんだ♡ いつも以上に先輩の匂いがして♡ 息がかかって♡ 先輩の味がた一くさんして♡気持ちいい♡好きい♡無理やりペロチューされるの大好きい♡ えへへ……♡」

(肉声)

「…………ふふ♡
先輩のこと、もっと好きになりました。私……幸せです……♡」

「あっ……♡ 先輩の腕の中……あったかい……。なんだか、安心します……」

「先輩、好きです……。私、あなたの彼女になれて……本当に、よかったです……」

「本当に、本当に……あなたの為なら、死んだっていい……」

「うふふつ、大きなあくび……。また眠くなっちゃったんですね」

「でしたら……もう一度、膝枕しませんか？
私のお膝は……先輩専用なので……いつでも好きに使ってください……」

「ん……しょ……。
ふふふ、そんなに私の膝枕、気に入ってくれたんですね」

(妖艶に)

「よかったです……私のお膝でリラックス出来たなら……
とっても……嬉しいです……♡」

「これからも、私がいっぱい癒してあげますからね♡
……だ~いすきです♡……せ・ん・ぱ・い♡」